

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名

鳥取湖陵高等学校

重点項目	専門人材育成	提出日	令和4年4月21日
------	--------	-----	-----------

1 学校目標	
<p>「多面的な取組で地域産業を担う専門人材を育てる鳥取湖陵高校の教育を推進する」</p> <p>①実験実習、資格取得などの実践的な教育を基礎に、習得した知識・技能を社会で活用する基礎的な力も養い、勤労観・職業観を育て、キャリアの充実を図る。</p> <p>②新たな学び方を通し、生徒の主体的で深い学びを促し他者と協調する能力を養う。</p> <p>③人権尊重の心を育て、自他ともに尊重する共生の精神を形成する。</p> <p>④生徒一人ひとりの心情を理解し共感と相互信頼に基づいた指導を通して、規範意識を高め、市民としての素養を身につける取組を進める。</p>	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<p>(1) <u>自立</u>を促すキャリア形成能力を育てる教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力や専門領域の基礎基本を身につけ、資格検定への積極的な挑戦を促す。 インターシップや企業・上級学校見学等を通して、ふるさとで働き、学ぶ意識を高める。同時に勤労観・職業観を育成し自らのキャリアを設計する基礎を育てる。 実践的な専門教育を通じ、産業界で必要とされるより高度な知識、技能に挑戦する。 高校生として、市民の一人として有すべき素養と規範意識を高め、自らの人生を自らの手で切り開く意欲と素直さを身につけさせる。 教職員が方向を揃え保護者や地域と連携し、明確かつ強力な姿勢で生徒を育てる。 <p>(2) <u>協同</u>の学びで自他を高める教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 学びの成果を地域で活かす経験を重ね、意欲を育てる学びのサイクルの確立を目指す。 小中学生や県民に積極的に学校を開放し、共に学ぶ経験を重ねることで生徒の学びを深めるとともに本校への理解を深めていただく機会とする。 地域活動、ボランティア活動等を通じ「ふるさと鳥取」を愛する心を育てる。 障がいのある方や異世代間交流を通し、人権を尊重し自他を愛し共に生きる心を育む。 特別な支援が必要な生徒に配慮しつつ個を伸ばす教育を行う。 <p>(3) <u>学びを創造</u>する力を高める教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒に仲間とともに学ぶ喜びを感じると同時に学ぶ 	<p>◎生徒1人あたりの資格等受検率（受検数/生徒数）、合格率ともに昨年度よりわずかながら増加した。</p> <p>受検率 R2 : 2.58 → R3 : 2.68 合格率 R2 : 58.5% → R3 : 59.5%</p> <p>◎新型コロナウイルス感染拡大によりインターシップにおける就業体験は実施できなかったが、2年生は科別に事業所見学を実施し、将来のキャリア形成につなげることができた。</p> <p>◎学習成果を地域に発信する「湖陵フェスタ」については、地域の皆様を招いてイベントを実施することはできなかったが、Webバージョンと題してYouTube上の「鳥取湖陵高校チャンネル」において各科の取り組みを配信した。生徒は、映像にまとめることで学習成果の振り返りができ、今後の学習意欲の向上につなげることができた。</p> <p>◎食品システム科の生産物販売、緑地デザイン科の小学校、特別支援学校との園芸交流、人間環境科の介護施設における実習など様々な形で異世代や障がいのある方との交流ができた。交流を通して「ふるさと」や「地域の人々」を思いやる気持ち、深くつながる視点を育むことができた。</p>

<p>責任があることの意識を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用教育を推進し、複雑で高度化する情報社会で生きる力をつける。 ・BYODの成果と課題を検証し発信する。 ・協同学習の理念を基盤にしたアクティブな学びを実践し、主体的で深い学びに導く。 ・専門教科と共通教科の連携等の工夫を行い、学力や学習意欲の向上を目指す。 <p><数値目標></p> <p>○取得資格の目安・・・資格取得・検定数（卒業までに3個以上）</p> <p>○難易度により3段階に分けた資格や検定に計画的に継続的に資格取得や検定合格に臨む。</p> <p>ベーシックを基礎として、1年から2年時の取得を目指す・・・概ね受験者の80%以上の合格を目標とする。</p> <p>○アドバンス、スペシャルは、2年後半から3年前半にかけて取得を目指す・・・概ね受験者の50%以上の合格を目標とする。</p>	<p>◎これまで活用してきたiPadによる協同学習に加え、ChromeBookの配布により教職員はどちらかの端末を所有し、授業等に活用することができた。生徒の健康観察、クラス等の連絡にGoogleのクラスルームを活用するなど生徒は様々な機会にICT機器を活用した取り組みを行うことができた。</p> <p><数値結果></p> <p>◎学年が上がるにつれ、受験対象となる資格等の難易度が上がり、合格者数も減少するが、3年間を見れば、多くの生徒が3つ以上の資格等を取得している。</p> <p>生徒1人あたりの年間資格取得数 R2:1.51 → R3:1.59</p> <p>学年別合格者数（のべ人数） 1年:409 2年:263 3年:83</p> <p>◎ベーシックの合格率が80%には達していないが、昨年度より上昇が見られた。</p> <p><段階別合格率></p> <p>ベーシック R2:52.7% → R3:58.7%</p> <p>アドバンス R2:41.1% → R3:42.9%</p>
--	---

3 実施事業

【高等学校課事業】

外部人材活用事業（社会人講師活用事業） 【全科実施】

それぞれの専門分野の講師から直接、知識や技術を学ぶことで専門性の深化と応用を図る。また、地域と連携するなかで地域産業への理解を深め、地域課題の解決能力を身に付ける。

◎各学科において12の講座を実施することができた。どの講座においても専門分野のトップランナーより講話を聞かせていただき、体験を通して専門性を高め、地域や身近な課題解決のつながる視点を養うことができた。

「ようこそ高校へ」（キャリア教育充実事業キャリア塾） 【全学年】

キャリア教育を推進するため、ビジネスマナーの講義を受ける。良き社会人、社会の構成者を目指すためにも高校生活を充実させ、常に基礎学力の向上を図ることが大切であることを理解する。

◎全学年で実施予定であったが、2年生は中止、1年生は進路ガイダンスをキャリア塾として実施した。3年生は就職、進学希望者別にビジネスマナー講習を実施した。生徒自身の進路意識向上、キャリア形成につながる取り組みとなった。

東部地区専門高校協同企画「ふるさと専門高校フェスタ」（チャレンジサポート事業）

各専門高校の学習内容を多くの県民に周知できるイベントを開催する。「ものづくり」体験、さらに、各校の生産物、コラボ商品等の販売等のブースを設置し、魅力を発信する。（令和3年度、鳥取湖陵高校が事務局）

◎7月にわらべ館にて例年より規模を縮小して「ふるさと専門高校フェスタ」と題して実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大により体験イベントは中止とした。しかし、専門高校4校の取り組みを紹介するパネル展示をわらべ館にて約2週にわたって実施した。農業、工業、商業、家庭、情報のそれ

ぞれの良い所を子どもたちに紹介することができた。

【独自事業】

自立する力

(1) インターンシップ 【全科共通2年】

東部地区の学校・企業・施設等において、本校で学んだ専門教育等の学習成果を発揮するとともに、勤労観・職業観の育成や社会との関わり方、自分自身の素養をみつめる機会として実施する。

◎新型コロナウイルス感染拡大により4日間の就業体験は実施できなかったが、科別の事業所見学を実施し、生徒の「勤労観」育成につなげることができた。

(2) キャリア教育形成能力育成事業 【全科共通1年】

県内の上級学校や関連企業の見学をとおして、地域教育や地域産業について理解する。また、実際に働いている方や施設や設備の様子から、自分自身を働いている姿を想像し、将来の進路選択に役立てる。

◎鳥取短期大学、公立鳥取環境大学、マルサンアイ鳥取(株)、(株)正光など多くの地元教育機関、企業に協力していただき、実施できた。生徒自身の今後の進路探究活動に活かせる取り組みとなった。

(3) 専門技能育成

①技能オリンピック・若年者ものづくり競技会 【緑地デザイン科】

標記の大会への出場を目標とすることで生徒の意欲向上や専門技術の向上を図る。

②フラワーデザインの技術向上 【緑地デザイン科】

プリザーブドフラワーの作品を制作、展示し校外外に学習内容をアピールする。

③庭園の設計・制作と出展 【緑地デザイン科】

鳥取県造園建設業協会主催の「花と緑のフェア」で庭園を披露する。

④技術講習会 【緑地デザイン科】

「造園技術検定」・「フラワー装飾技能検定」の実技練習を実施し、合格率の向上を図る。

⑤検定取得による技術向上 【電子機械科】

とっとり技術マイスター認定技術者を講師に、「普通旋盤」・「電子機械組立」の合格を目指す。

⑥「持続可能な農業を目指した土づくり」に関する実践研究 【食品システム科】

農場で発生する植物残渣を「エコファーム鳥取」に持ち込み、たい肥化し農場で使用する。

⑦A Iプログラミング競技会参加 【情報科学科】

全国の情報学科が学ぶコンテストへの参加を通して、実践的な活用能力を高める。

◎①②④⑤⑥計画通り実施し、成果を上げることができた。

③⑦新型コロナウイルス感染拡大により大会が行われなかったり、参加することができなかったが、校内において実践を行い技術等の向上ができた。

(4) 湖陵版資格スタンダードの決定 【全科共通】

各科で重点的に取り組む資格を生徒にわかりやすく説明するため、専門科目や特に重要視する部分を明示し、学習意欲の向上や課題研究への接続を円滑にすることを目的とする。資格の見える化を図り、教科指導の充実や生徒の資格取得をしっかりと支援する。

◎新型コロナウイルス感染拡大による影響で、中国地区の先進的な専門高校への学校訪問が実現しなかった。しかし、産業教育に関する先進的な取り組みを行う書籍を購入し、目指すべき生徒像、資格取得に向けた取組等の研究を行った。

(5) 基礎学力養成 【全科共通】

夏季休業中に大学生等を招き、生徒への学習を支援してもらうことで、より効果的な学力の定着を図ることができる。

◎取り組み状況は良好であり、学生ボランティアから進路講話をしていただくなど有意義な学習の機会となった。

協同する力

(1) ふるさと交流事業

①公民館との味噌づくり【食品システム科】

地域住民の方々に食品加工施設を開放して、味噌づくりを体験してもらう。

②小学校・特別支援学校園芸交流【緑地デザイン科】

湖山、湖山西小学校、鳥取豊学校等と手話交流などを通じた児童との園芸交流を進める。

③わらべ館と連携RCカーサーキット走行会【電子機械科】

わらべ館のラジコン展イベントと連携し、RCカーサーキット走行会を運営。

④福祉交流体験【人間環境科】

鳥取医療センター重症心身障がい者施設等で障がい者自立支援活動体験・重症身体障がい者介護体験・音楽セラピーの実施等に取り組む。

⑤iPad活用交流とプログラミング交流【情報科学科】

特別支援学校を対象としたiPad活用支援や小学生を招いてのプログラミング交流の開催。

⑥園芸セラピー【全科共通】

ボランティア部を中心に利用者の方と草花や作物の栽培、フラワーアレンジメントなどの作品作り。

⑦地場産プラザ「わったいな」における生産物販売実習【農業学科】

校内で栽培・加工した生産物を直売センターで販売することで、流通・販売までを総括した学習を実践する。土曜日に実施することで本校の教育内容を多くの県民にアピールするとともに販売技術や接客マナーの向上につなげる。

◎どの事業においても新型コロナウイルス感染拡大の影響があったが、実施時期をずらしたり、オンラインを活用するなどして事業を実施することができた。

(2) 魅力発信事業

①中学生一日体験入学

中学3年生に本校の特徴である総合選択制や教育内容を理解してもらうことを目的とする。各科及び各コースの実習内容を体験してもらう。

②中学校出前授業

中学1・2年生対象に本校生徒が出向き、専門高校の各学科の基礎的な体験を通して専門高校への理解や興味・関心を深めてもらう。

◎①夏季休業中に予定していたが延期となり、10、11月の2回に分けて開催した。秋の開催となったので、中学生が希望する学科が決まっていることが予想されたため、学科ごとの体験を短時間で行うことを目的とした。どの科においても中学生が熱心に取り組む姿が見られた。

②のべ4つの中学校へ本校教員が中学3年生に対して出前授業を行った。2月以降にも2年生へ3つの中学校へ訪問する予定であったが中止となった。近年、中学生の専門高校への進学率が下がっている印象がある。このような取り組みをさらに積極的に実施し、地域産業を支える人材育成につなげたい。

(3) 湖陵フェスタ

本校の専門教育の内容や教育環境を広く県民に周知するとともに、教育内容改善の一助とするものである。地域との連携はもちろん、中学生や保護者の本校教育内容の理解の促進に資する。また、この取り組みの準備や販売・展示を通して生徒の学習意欲の向上につなげる。

◎新型コロナウイルス感染拡大の影響により、対面として行う形での実施は中止することとした。専門学科、普通教科、部活動など日頃の成果を「映像」にまとめ、「鳥取湖陵 YouTube チャンネル」を使ってWeb上で配信した。生徒は、自分たちの取り組みを映像にまとめることで学習内容の振り返りができ、他者評価を受けることで今後の自学科への学習の励みにもなった。また、今後の中学生等に向けたコンテンツの積み重ねにもつながった。

創造する力

(1) 実践による創造力向上事業

①JGAP認証農場の維持と普及及び県版HACCP認証鳥取湖陵ブランド食品の開発【食品システム科】

令和元年8月取得のJGAPの維持推進と6次産業化教育を推進し、本校独自の食品開発に取り組む。
◎今年度認証期限の迫る「JGAP」個別認証の更新が承認された。JGAPについて指導ができる人材の育成を目指し、そして、教員がJGAP研修に参加し、指導できる体制が構築できた。

②JR鳥大前駅壁面のフラワー装飾と学校緑化プロジェクト【緑地デザイン科】

駅構内の壁面に花壇装飾を設計・制作し、学習内容の成果をPRする。校内に庭園・樹木見本園を設計施工する。

◎季節に相応した草花を選択し、年間2回の植栽を行った。企画段階では、花の色合いを考え、図面化していくことによって、季節に応じた草花を選択し、より具体化していくことができた。植栽においては、作業箇所全体を視野に入れながら、色合いの強調を意識し、草花の間隔を調整し作業することができた。

③レゴロボットによるプログラミング教育・世界への挑戦とAVRマイコンを用いたIoT学習教材の製作【電子機械科】

国際的ロボットコンテストWRO大会参加と子ども向けロボとワークショップを開催。3年生課題研究でIoT学習教材を制作する。

◎ロボット製作をとおして、動作機構の理解力とプログラミングの技術が向上し、競技課題をクリアするためのチームでの試行錯誤で、課題解決能力が養われた。

・レゴロボット全国大会予選会 (WRO Japan 2021 鳥取予選会)

1チーム参加 (生徒3名) 第2位 全国大会出場

・レゴロボット全国決勝大会【オンライン】(WRO Japan 2021 決勝大会)

④ファッションショーの開催【人間環境科】

「ファッション造形基礎」の授業の成果発表として、「青陵祭」でファッションショーを披露する。

◎本校体育館にて人間環境科3年生28名が自分で製作した衣装を披露することができた。製作・発表の苦労や喜びを体験すると同時に、専門科の一員としての意識や自覚を一層高めることができた。この体験によって服飾関係への進路を決めた生徒が6名あった。

⑤鳥取県の魅力発信【情報科学科】

食のみやこ推進課と連携し、地元デザイナーに助言をいただきながら、ノベルティグッズを作成する。

◎今年度は、地産地消月間で広報活動に用いる「ミニのぼり」を、2年生「課題研究」において制作した。生徒は慣れないグッズのデザインに悪戦苦闘しながらも、鳥取県の良さを盛り込んだデザインを考え、形にする作業を通して、人に喜んでもらうデザインの視点を養うことができた。

⑥2020ジャマイカ事前キャンプおもてなし【人間環境科・食品システム科】

オリンピックホストタウン推進事業の一環として、ジャマイカの紹介、試食料理の提供、JGAP認証トマトの料理等で事前合宿をおもてなし。

◎鳥取県におけるオリンピックのジャマイカ事前キャンプが中止となったため、目標にしていた「おもてなし」はできなかった。これまでの取り組みをボードにまとめる作業を中心に展開した。残念であったが、取り組みを引き継ぐことで、学年を超えてお互いを思いやる気持ちが育った。また、おもてなしメニューをより良くしたいと自分たちで工夫をする姿が見られた。

⑦スマート農業【緑地デザイン科・電子機械科・情報科学科】

工業、情報、農業科が連携し、小型コンピュータ(ラズベリーパイ)で湖陵版スマート農業に取り組む。

◎昨年度製作した小型のビニールハウスに、モニタリング用の機器や、日射・温度センサー、換気ファンの設置を進めた。工業科の知識・技能を他の分野で役立てることができることを実感できた。

⑧起業家教育事業【農業学科】

各種緑化フェアや「わったいな」で販売実習に取り組む。

◎企業との連携は、緑地デザイン科の生徒による「わったいな」における門松づくり、食品システム科の販売実習(わったいな、鳥商デパートなど)、校内事務室前における各種パンの販売(製菓営業許可取得による)、道の駅「神鍋」における福神漬販売など大変多くの機会を持つことができた。商品流通における自分たちの役割を認識し、今後の学習意欲を高めることにもつながった。

4 総合所見（成果・評価）

「専門人材育成重点校」として、生徒が基礎学力の向上を基盤として専門教育の基礎基本を身に付け、様々な取り組みを通して地域産業を支える人材となるべく、学校として前進することができた。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、予定通り実施できないこともあったが、概ね目的を達成できた。

資格等の取得においては、大きな合格率の向上とはなっていないが、多くの生徒が放課後補習を熱心に取り組む姿が多くあり、組織的な支援体制の充実も見られた。また、画像・映像配信などを活用し、学習成果を発信する機会が増加し、生徒の学習意欲向上につながっている。

※枚数任意